

地域振興に寄与する小水力発電アセットマネジメントガイドライン

宗広 裕司 小水力発電アセットマネジメント小委員会 委員長
(株式会社長大 海外事業本部 グローバル事業推進部 部長)

水資源の豊富な我が国にとって、水力発電は最も安定した電源の一つであり、特に小水力発電はクリーンで再生可能なエネルギーかつ大規模な投資が不要であることから、今後さらなる普及が期待されています。しかしながら、現在までの我が国における水力発電への取り組みは出力1,000kW以上の開発が主流であり、1,000kW未満とりわけ地域資源として活用しやすい200kW未満の開発は、その資源賦存量を考慮すると取り組みが遅れています。FITの整備で事業性が担保されやすくなったものの、系統連系の問題、許認可手続きの課題、地元の合意形成や事業主体形成の重要性、開発期間短縮のための事業計画の重要性など、小水力発電特有の障壁・課題が依然として残っています。

このような特色を持つ小水力発電事業に対し、これまで国や自治体、エネルギー関連団体等によって、技術基準・指針（ガイドライン）が作成されてきました。しかし必ずしも小水力発電に焦点をあてたものとはなっておらず、小水力発電に適用可能な合理的・効率的な技術基準や指針が不足しています。また、関係者（ステークホルダー）が多岐に渡る小水力発電事業開発の障壁となっている上記課題を解決に導くものになっているとは言い難い状況です。

地域資源（アセット）である小水力発電を持続可能かつ地域振興に寄与するものとしていくためには、「調

査・計画、設計、地元合意形成、事業主体の形成、資金調達、EPC、O&M、更新、廃棄」のライフサイクルに亘って一貫したアセットマネジメントを展開することが有効であると考えます。

このため、JAAMでは「小水力発電アセットマネジメント小委員会」を設置し、小水力発電に関するアセットマネジメントガイドラインを策定することとなりました。本ガイドラインを活用することで、事業に関わるステークホルダー（自治体、水利権者等権利者、地域住民、小水力発電事業者、施工会社、コンサルタント、投資家）が互いにメリットを感じ、地域振興に寄与する水資源開発に向けての合意形成の円滑化を可能にし、小水力発電をきっかけとした持続可能な地方創生・地域活性化につながるようなガイドラインの構築を目指します。

また、本ガイドラインでは、地域資源（アセット）としての小水力発電事業を対象に、多面的・客観的な指標により数値化・見える化の為のツールとして、九州大学都市研究センターが提唱する「新国富指標」を活用した評価方法の確立を目指します。小水力発電事業の取り組みを数値化することで、対象事業が当該地域にもたらす多様な豊かさを金銭的価値として測定し、対象事業の持続可能な資産価値の評価が可能になり、小水力発電事業のさらなる普及につながると考えております。